

ガバナー補佐自分を語る

「ロータリークラブと私」

国際ロータリー第2510地区
第12グループガバナー補佐

田辺 真樹 (白老RC)



2022年3月開催のエレクトセミナーでガバナー補佐予定者が自己紹介をする機会があった。皆さんは在籍年数を含め上手に挨拶をした。私は突然のこともあり在籍15年と自己紹介をしたが後日確認をしたところ19年であった。私は大学を卒業後地元に戻りサラリーマンをしていたが中学高校の同級生に誘われるまま青年会議所に入会し17年間週に何度も夜の経済循環に貢献した。ローカルの町であるため青年会議所卒業と同時にロータリークラブとライオンズクラブから入会のお誘いを受ける。何せ両クラブの主要な役職に青年会議所の先輩が大勢いるからだ。当時私の父はロータリークラブに在籍をしていた。父はロータリークラブが大好きで何年も100%出席をしていたので記念のバッジが今私の手元に数多く残っている。そんな父がクラブを退会することとなると長年お世話になっている先輩が会長エレクトだったこともあり有無もなく入会することとなったがそれが19年前であった。入会后知ったことだが祖父もチャーターメンバーであった。祖父は私に入会を勧めて頂いた先輩の結婚披露宴で新郎である先輩の事には一切触れず1時間30分挨拶をしてしまい、残りの時間で進行することが大変だったそうだ。私がロータリークラブに入会することもどこかでルールが敷かれていたのかもと思う。私にはロータリークラブが凄く心地良き空間に感じる。毎週笑顔で食事をともにし夜間の例会ではお酒を片手に近況について語り合う、会員には年配の方もいれば入ったばかりの若いメンバーもおり様々なものの見方に刺激を受け合う、仕事に戻るとそれぞれリーダーの立場で気を張っているメンバーがほんの少しだけホッとできる時間を共有するそんなひと時がとても大切な時間とを感じる。

今年度はガバナーのメッセンジャー役としてグループ内のクラブを訪問させて頂く機会に恵まれ私にとっては大変貴重な一年となった。同じロータリークラブといっても各クラブ様々でそれぞれ雰囲気が違う。会長・幹事さんのお人柄や年齢も様々だ。所属クラブとは違い初回の訪問時は緊張したが2度3度と回数を重ねると素敵なおひと時と感じられるようになってきた。地区の会議においても初めは緊張していたが回を重ねると段々楽しい時間であると感じられるようになってきた。それはグループという枠を超え出会った人々が素晴らしい仲間であったからに他ならないからであると思う。これからも同じ地区・グループ内の出会いを大切しながら皆さんとともにロータリークラブという「素敵なおひと時」を共有していきたいと思う。